

再開しました

北海道帯広市

若月玲子(79)

もどかしい

千葉・印西市

上原美保

やっと心地よい風になりました。健康のためにとやっていたウォーキング、猛暑のときはひかえていましたが、また始めました。往復1時間、ときどき喫茶店でお茶をすることも楽しみの一つで

す。 やっと秋らしい風が吹いてきました。私が子どもの頃、夏はここまで暑くなかったですね。煮えくり返っている地球。 政治面ではいつも風が吹きまわっていて、落ち

読者がつくる ページ

着いた生活ができません。安心して暮らせるようにと思いますが、なかなか具体的に動いていないもどかしさ。せめて、新婦人しんぶんを目を通すよう努めています。

千葉県 岡山市

安岡満利子(68)

初めて家庭菜園にチャ

レンジ。キュウリを2本、ナスを2本植えました。しかし、ナスは花は咲くのに実はならず。キュウリも1本は花のみで、残った1本のキュウリの苗から、何と30本以上のキュウリが実りました。まだ実をつけているので、50本はいけるかもです。酢の物やぬか漬けにして楽しんでいきます。

かすかな磯の香「いぎす」

島根・出雲市 高橋倫子(44)

私の生まれ育った鳥取県中部の倉吉市には、「いぎす」という料理があります。天草の一種、いぎす草を煮溶かして冷やし固めたものです。見た目は羊羹のように黒くてプルプルしています。

鳥取県でも東部や西部ではあまり食されていないそうです。子どもの頃は苦手でしたが、大人になってから食べてみる

故郷を思い出すけんちん汁

兵庫 西宮市 トコトコ

かすかな磯の香りはするものほとんど味はなく、ゴマを振りかけて生薑醤油などで食べます。日常的に食べるものではなく、冠婚葬祭で振る舞われます。

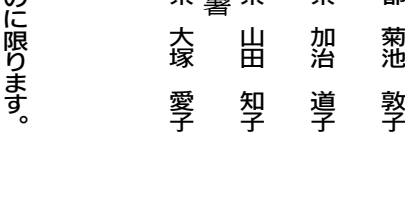
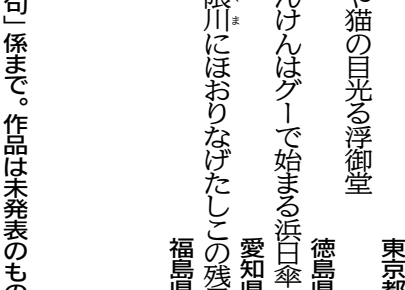
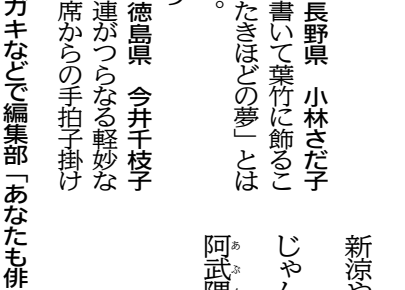
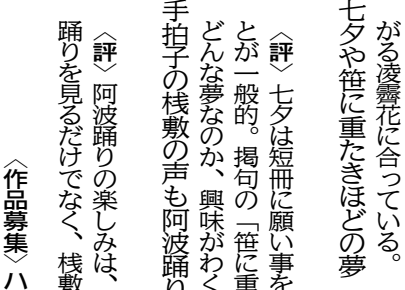
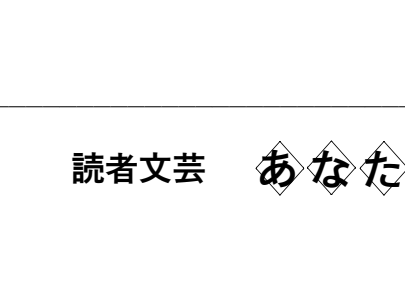
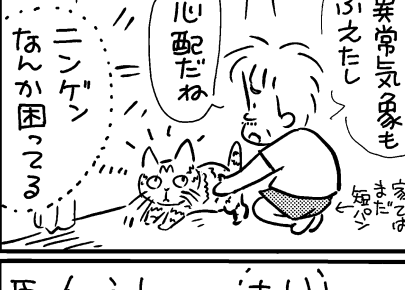
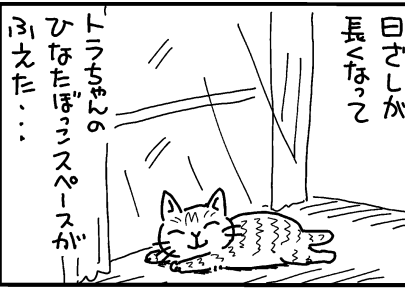
故郷は群馬県で、高校生まで過ごしました。大進学のため、故郷を離れて関西にきました。故郷の冬は寒くて空っ

風が吹き、手にはひび割れができました。そんな

寒いから体を温めるのに、けんちん汁をよく食べました。サトイモ、ニンジン、ダイコン、コンニャク、竹輪、豆腐など畑で採れたものが入って

今家族がいるけど、残念ながら煮込み系の麺類が好きではないので、なかなかつくる機会がありません。故郷の味は、実家の家族団らんの思い出の味ですね。

おてんき てんきII



読者文芸

あなたも俳句

金子まさ江 選

四歳の記憶はおぼろ敗戦日

北海道 広瀬むつき
《評》今年には戦後・被爆80年。戦争の悲惨さは筆舌につくせない。4歳の記憶はおぼろげだが、今もなき真実の動きに敏感に反応せざるをえないのではないか。

長野県 上田よう子
《評》「言葉滾りて」に語り部の体験した真実を伝える熱意が聞き手に伝わっている。この上がる露花に合っている。

長野県 小林さた子
《評》七夕は短冊に願ひ事を書いて葉竹に飾るとが一般的。掲句の「笹に重たきほの夢」とはどんな夢なのか、興味がわく。

徳島県 今井千枝子
《評》阿波踊りの楽しさは、連がつかなる軽妙な踊りを見るだけなら、棧敷席からの手拍子掛け

《作品募集》ハガキなどで編集部「あなたも俳句」係まで。作品は未発表のものに限ります。

川柳

・冷蔵庫いらんものまで冷えている
京都・向日市 ようこ
・紅葉を待たず枯れ落つ桜の葉
和歌山・田辺市 江藤弥生(70)

お年寄りって？

三重・玉城町

池田千恵

9月で68歳になりました。テレビで「65歳以上のお年寄り」と表現される

るところに、当事者としてはちよっとひっかかっています。私の感覚でお年寄りは「80歳以上」。



東京・江戸川区 飯塚恵子

重すぎる

兵庫・姫路市

三村弘美

孫(小2)のランドセルが重すぎるのではないかと思っています。ネットで調べたら、人ネットが持っている。孫の場合には限界を超えています。 ほかのお子さんはどうなのでしょう。関係者が持つ(担ぐ)カバンラ

声も賑わいを増す。私の住む南越谷阿波踊りも知名度を上げています。

絶壁を超えて天空大花野

《評》険しい山を上り詰めた先の天空とそこに広がる大花野は何とも清々しく達成感に満ちている。

平和の礎に「命ごとく宝」沖繩県
東京都 岡崎たかね
群れ咲いて月山への道金光花
東京都 菊池 敦子
新涼や猫の目光る浮御堂
徳島県 加治 道子
じゃんけんはグーで始まる浜口傘
愛知県 山田 知子
阿武隈川にほおりなげたしこの残暑
福島県 大塚 愛子